



令和5年9月28日  
佛教大学附属こども園

「仏教保育 10月のねらい」  
同時協力

## 「誰に勝つの？」

園長 佐藤 和順

今夏は100年に一度の暑さだったとか。ただ、お彼岸を過ぎて、朝夕に吹く風に一層秋らしさを感じる好季節となりました。秋といえば「スポーツ」「読書」「食欲」等様々な楽しみ方があります。園でもいろいろな秋を子ども達は経験しますが、今月行われる運動会は「スポーツの秋」の代表的行事ともいえるでしょう。

今月の保育の目標は「同時協力（どうじきょうりよく）お互い助け合う」です。一人ではできないことも、二人ならできます。二人ではできないことも、大勢ならできます。皆で助け合うことによって思いもかけない大きなこと、経験ができることを学んでほしいと思っています。

運動会の練習ではまさにこの同時協力が実践され、団体競技のみならず個人競技等でも協力して取り組む姿がみられます。団体競技では友だちとの協力なしには、競技が成り立ちません。個人競技であっても、「声援」という形で友だちを励ますことにより、助け合うことや、協力することの大切さが自然に身についていきます。

私たちはついつい、他の人と比較して、その結果を気にしてしまいます。運動会の順位などもその一つでしょう。他の人との競争に勝つのは格好がいいし、気分がいいかもしれませんが、そのために頑張ることも悪いことではありません。でも、本来は誰にも勝てなくても気にすることはないのです。精一杯頑張っても勝てなかったら、仕方ありません。本当に大切なのは、すぐにあきらめたり、くじけたりしないことです。心の中にある「弱い自分」に勝つことです。勝つことから学ぶこともありますが、負けたことから学ぶこともたくさんあるのです。あきらめないで最後まで頑張るその姿が、佛大附属こども園が目指す非認知能力であり、その努力に声援を送りたいものです。

運動会だけではなくありません。広沢なかよしまつりでも友だち」といろいろなことを経験することでしょう。また、毎日の保育においても同様です。日々の生活の中でもすぐあきらめたり、くじけたりしないこと、友だちと仲良く協力することを子どもたちには経験してほしいと願っています。

この秋、日々の保育や行事が子どもにとって実り多き収穫になることを願いながら、保育者自身も子どもと思いを共有し、充実した園生活を過ごしていきたいと思っています。

